



女子事件
東京大
東大
東大
東大

薬剤投与も隠す

執刀医「記録に残すな」

東京女子医大病院の心臓手術ミスで、警視庁に証拠隠滅容疑で逮捕された講師で執刀医の瀬尾和宏容疑者(46)が、手術後に女兒へ投与した脳障害の薬剤名や量を診療記録に記載しないよう看護師に指示していたことが分

かった。人工心肺装置の操作ミスで脳障害を引き起こしたことを隠すためだったとみられる。看護師は実行しなかったが、瀬尾容疑者が、逮捕容疑となった人工心肺の作動記録偽造などのほかにも隠ぺい工作をしていた実

態が浮かんた。瀬尾容疑者は昨年3月2日に群馬県高崎市の小学6年生、平柳明香さん(当時12歳)の手術を執刀し、この際、人工心肺装置を担当した医師、佐藤一樹容疑者(38)は業務上過失致死容疑で逮捕

Ⅱが操作を誤ったとされる。明香さんは血液循環の停止による重大な脳障害を起こし、3日後に死亡した。関係者によると、瀬尾容疑者は手術の翌日、脳障害によって起きた脳の腫れを抑える薬剤を明香

さんに投与した。しかし、診療記録に薬剤名や量が記載されていれば、脳に障害が起きたことが分かり、人工心肺装置の操作ミスが発覚する恐れがある。このため、この薬剤

を使用しなかったことにするよう看護師に指示したという。結局、看護師は指示に従わず、診療記録には実際に投与された薬剤名と量が記載されたという。

女子医大小児心臓手術事故

改竄

2002年6月30日 毎日新聞